

【第4回】

御影公民館及び清水消防署御影分遣所
建設基本構想策定

検討委員会資料

2026年9月28日

－検討委員会のスケジュール－

「御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会」では、下表のスケジュールで検討を進めることを想定しています。

開催時期		協議事項（案）
第1回	6月29日	御影地区・現況施設の概要
第2回	7月28日	御影地区の今後のまちづくりの方向性と施設のあり方
第3回	8月24日	施設の導入機能①（基本方針と配置場所）
第4回	9月28日	施設の導入機能②
住民説明	10月	基本構想の骨子（ニュースレター配布）
第5回	10月	基本構想案について
第6回	11月	基本計画① 施設の規模、配置計画など
住民説明会	12月	基本計画に向けて
第7回	12月	基本計画②

－事業スケジュール－

- 複合化施設の事業スケジュールは、以下を想定しながら進めます。

令和8年度

10月頃を目処

基本構想

10月頃から
スタート

基本計画

令和9年度

基本設計

令和10年度

実施設計

令和11年度

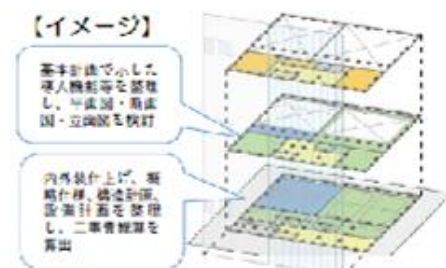
工事着工

基本構想

- 施設整備のコンセプト、概ねの導入機能、規模、候補地、配置イメージなどの基本的な考え方を整理します。

基本設計

- 基本計画を踏まえ、意匠を決定し、建築、構造、電気設備、機械設備等の基本設計を実施します



実施設計

- 施工を考えてデザインと技術面の両面にわたって詳細な設計を行うとともに工事費の具体的な積算を行います

1. 第3回検討委員会（8月24日）での意見のポイント

(1) 主な意見のポイント

- 消防機能は現状の機能を維持しつつ、車庫や訓練スペースを確保し、支所・公民館機能と共有できる部分は共有する方向性が確認された。
- 複合施設を日常的に人が集まる場所にするために、カフェだけではなく、店舗・テナント・チャレンジショップなどを、民間事業者との連携も含めて検討すべきという意見が出された。
- 防災備蓄や避難所機能については、公共施設内の備蓄だけではなく、民間店舗との災害協定など、平常時の利便性と災害時対応を両立する仕組みの必要性も出された。
- 基本構想としては、消防・支所・多目的ホール・交流ロビーを基本に、既存施設や屋外空間、民間機能をどう組み合わせるかが重要な検討課題となることを確認した。

(2) 議事要旨

① 消防施設について

- ・消防機能については、御影分遣所の車庫が非常に狭く、車両の大型化に対応するため車庫部分を広げる必要がある。
- ・消防団員の高齢化や人口減少を踏まえ、5年後、10年後を見据えたときに、現在想定している規模を縮小するという考え方もあるかもしれないが、火災時の打合せや研修に使えるスペースは必要であり、共有できる部分は共有しながら、消防として必要な機能は維持したい。
- ・職員数や車両台数を大きく増やすということではなく、基本的には現状機能を維持しつつ、公民館・支所との複合化により、会議室、トイレ、機械室、備蓄倉庫、非常用発電設備など、共有できる部分はできるだけ共有し面積を圧縮する。

② 防災機能について

- ・災害時に多目的ホールを避難所として使う場合、炊き出しに対応できる調理機能などが必要である。
- ・消防施設では、御影地域全体を賄う規模は難しいものの、一定程度の調理機器を備えることは可能である。
- ・消防団の待機室は、消防団の活動拠点として必要な部分であり、災害時に一般避難所として使うには手狭で利用は難しい。
- ・備蓄については、現在も段ボールベッド、毛布、非常食などがあり、非常食は200人分を目安としている。
- ・公共施設内に備蓄倉庫を設けるだけでなく、コンビニや小規模スーパーのような民間店舗と連携し、平常時は営業しながら災害時には物資提供を受ける仕組みも考える必要がある。

③他の施設との機能分担について

- ・複合施設は単に「建物をまとめる」ものではなく、御影地区で日常的に使われ、災害時にも機能する拠点として、どう整備するかが重要である。
- ・既存施設との関係では、世代間交流センターや改善センターの部屋の面積や使い方を実際に確認したうえで、何を新施設に集約し、何を既存施設に残すかを議論する必要がある。

④施設の位置付けについて

- ・施設を公民館として位置付けるか、コミュニティセンター的に位置付けるかによって利用の制約が変わるため、運営形態も含めて検討する必要がある。

⑤交流ロビー機能について

- ・交流ロビーにカフェなどを想定しているが、カフェだけでは日常的に人を呼び込む力が弱い。より多くの住民が日常的に利用するには、店舗やチャレンジショップ、地域の人が出店できる仕組みなどを組み合わせることが必要である。
- ・店舗やテナント誘致については、人口規模や集客力の面から採算が合いにくい可能性があり、家賃条件や撤退リスクも含めて慎重に検討する必要がある。
- ・今後の人口減少に伴い御影にあるスーパー撤退の可能性なども見据えると、地域内の買い物機能や経済循環を守る観点から、民間店舗導入の可能性を検討することも必要である。

2. 御影地区の大切にしたい地域イメージ

ー御影地区のテーマー

人とのつながりとふれあいのある、暮らしやすいまち御影

①多世代が自然に交流できる地域

子ども、高齢者、子育て世代、地域団体が日常的に顔を合わせ、気軽に声をかけ合える地域。

②子育て世代を地域全体で支える地域

親だけで子育てを抱え込まず、地域の人が見守り、支え、子どもの成長に関われる地域。

③ゆったりと安心して暮らし続けられる地域

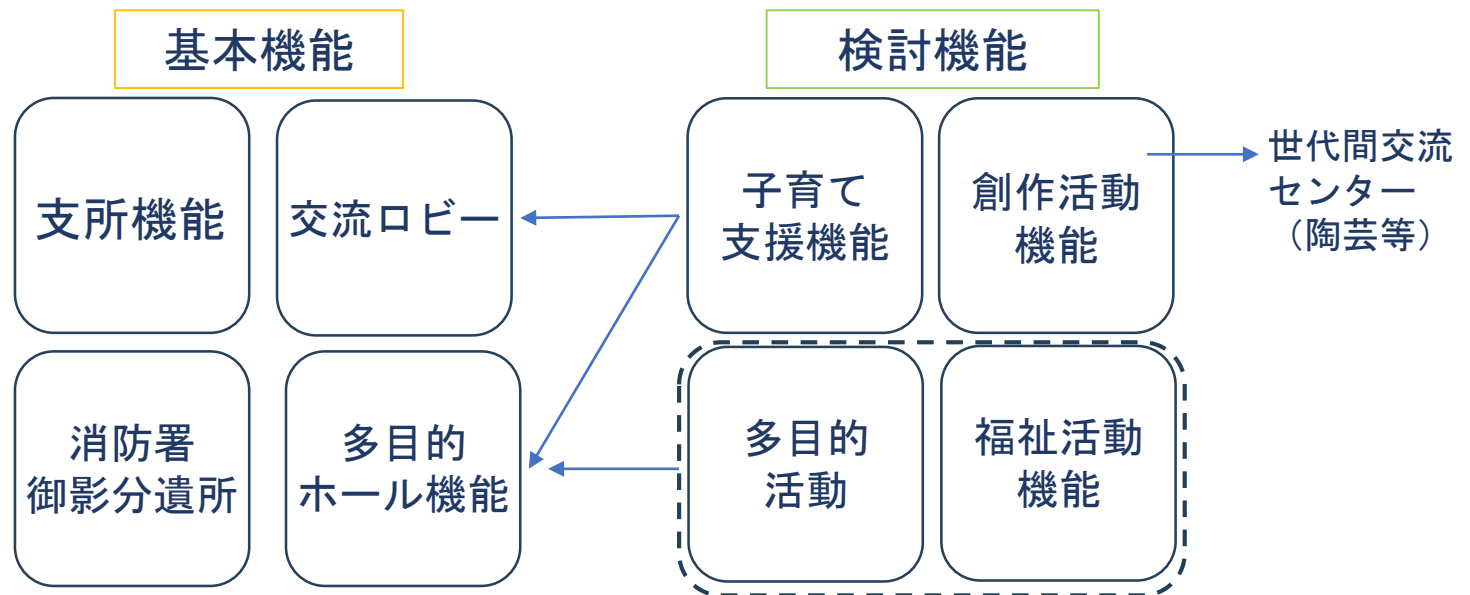
御影らしい空間のゆとり、人の温かさ、清水・帯広方面へのアクセスの良さを生かし、若い世代も高齢者も暮らし続けられる地域。

複合施設は、この方向性を支える地域の拠点と位置付けていきます

3. 導入機能

－御影地区で導入すべき機能－

- 現状の利用状況などを考慮すると、複合施設の検討にあたり、検討すべき機能は下図が想定されます。
- 支所機能、消防機能、多目的ホール、交流ロビーなどの基本機能を確保します。
- そのほか子育て支援、創作活動、福祉活動、多目的活動などの機能を組み合わせ検討します。



4. 機能イメージ

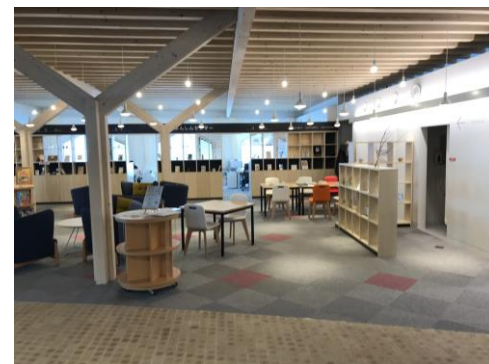
①支所機能

- 御影地区における身近な行政サービスの窓口として、各種手続きや相談に対応します。
- 高齢者をはじめ、地域住民が安心して暮らし続けるための基本機能として維持します。
- 3～4人程度の職員配置を想定し、窓口、執務スペース、簡易な相談スペース、来庁者の待合機能などを確保します。



②交流ロビー

- 交流ロビーは、子ども、高齢者、子育て世代、地域団体など、誰もが気軽に立ち寄れる複合施設の中心的空间として整備します。
- カフェコーナー、ミニ図書館、地域情報コーナー、チャレンジショップなどを組み合わせ、誰もが気軽に立ち寄れる場とします。
- チャレンジショップ機能を設けることで、地域の方が日替わりで、菓子・パン・農産品・手づくり品などを販売したりできるようにして、日常的に人が集まる場所となるようにします。



③多目的ホール

- 御影地区のレクリエーション活動、サークル活動、各種会合、発表会、子育てサロン、健康づくりなどに利用できる空間とします。
- 可動式の間仕切りなどにより、少人数から大人数まで柔軟に使える施設を目指します。
- 災害時には避難場所として活用します。



④防災備蓄庫

- 200人規模の非常食、飲料水、毛布、段ボールベッド、簡易トイレ、発電機、衛生用品などを備蓄し、災害時の避難所運営を支える機能として整備します。多目的ホールや支所機能、消防機能と連携しやすい配置とします。



⑤その他(再生可能エネルギー機能)

- 太陽光発電や蓄電池などの導入を検討し、平常時の省エネルギー化と、災害時の非常用電源の確保を目指します。環境負荷の低減と防災機能の強化を両立する施設とします。



5. 配置イメージ

A案(改善センターと並行に配置)



B案(現在の公民館と同様の並びで配置)



- 配置の比較表 -

	A 案	B 案
配置の考え方	- 改善センターに接続させる - 改善センターと並行に配置する - 出入口は改善センターと同様の方向にする - 現在の駐車場を消防の訓練スペースとして活用する	- 改善センターに接続させる - 現在の公民館の配置を踏襲する - 出入口は改善センターと同様の方向にする - 現在の駐車場を消防の訓練スペースとして活用する
メリット	- 公民館、消防署、改善センターの動線が分かりやすい - 公民館の背後にスペースができ、屋外の訓練・イベントスペースが広がる - 壁面が南側に向くことから壁面太陽光などの設置が可能になる	- 消防車が出庫しやすい - 消防署前の樹木を無くすことで、スペースができ、屋外の訓練・イベントスペースが広がる
デメリット	消防車の出庫をスムーズにするために、駐車場の入口を変更することが想定される	- 公民館、消防署、改善センターの動線がやや複雑になる可能性がある - 太陽光発電の設置可能面積が少ない

6. 運営について

―地域で支え 育てる 複合施設の運営―

- 複合施設の交流ロビーには、カフェ・ミニ図書館・チャレンジショップなど、住民が気軽に立ち寄れる機能を導入することが考えられます。こうした機能を柔軟に運営するためには、行政だけではなく、民間企業や地域で組織する一般社団法人・NPO法人・地域運営組織などが関わることも有効です。
- 運営組織が、御影地区のアクティブシニアなどを雇用し、カフェ運営、チャレンジショップの管理、施設の受付・清掃・見守り、イベント支援などを担うことで、地域の中に新たな役割や働く場を生み出すことができます。
- 新たな複合施設だけではなく、改善センターや世代間交流センターも一体的に運営することで、予約や問い合わせの窓口を一本化し、利用者にとって分かりやすく、使いやすい施設運営が可能になります。施設ごとの空き状況をまとめて確認できるようにすることで、各施設の有効活用や管理の効率化にもつながります。
- このように、複合施設は「行政が管理する施設」だけではなく、地域の人に関わり、支え、育てていく施設として運営していくことが重要です。

7. コミュニティ施設としての設置の検討

- 現在の御影支所は御影公民館内に設置されており、公民館はこれまで、地域の学習活動、文化活動、サークル活動、集会などを支える施設として重要な役割を果たしてきました。
- 一方で、公民館は社会教育法に基づく社会教育施設であり、営利を目的とした利用や、特定の営利事業を援助するような利用、宗教・政治に関わる利用などには一定の制約があります。
- 新たな複合施設では、支所機能や多目的ホールに加え、交流ロビー、カフェコーナー、ミニ図書館、チャレンジショップ、子育てサロン、地域イベント、防災拠点機能など、より幅広い利用を想定しています。
- そのため、施設全体を従来型の公民館として設置するのではなく、地域交流や子育て支援、健康づくり、小さな商い、イベント、防災活動などに柔軟に対応できるコミュニティ施設として位置づけることが望ましいと考えられます。
- なお、コミュニティ施設とする場合でも、現在の公民館が担ってきた文化祭、サークル活動、地域行事、住民の学びの場としての機能を無くすものではありません。これまでの公民館機能を引き継ぎながら、御影地区のこれからの暮らしに必要な機能を加え、より使いやすく、日常的に人が集まる施設を目指します。